

第		15		回						
住	民	の	自	治	-	統	治	研	究	会
ご		あ		ん		な		い		

現地研究会「釜ヶ崎支援機構」をたずねて -支援団体と西成のまちづくり-

と き:2013年2月9日(土)午後2時から4時

ところ:釜ヶ崎支援機構(西成区萩之茶屋 1-5-4)

集合場所・時刻:JR・南海連絡通路改札口、午後1時45分(時間厳守)

西成・釜ヶ崎は日本の貧困問題を含む社会問題と地域問題が凝縮、一体化している。現地研究会を継続して、地域で活動する支援団体を通じ地域の住民の自治・統治の事例を追究する。

前回 2012.12.8 研究会の報告

◆現地取材「西成特区構想から見た貧困と福祉」の中間議論 - 取材担当者からの報告

現地研究会・取材を通じた論点を議論し、さらに継続した研究対象として検討する中間議論を試みた。議論を通して地域の課題が顕在化し、課題解決のために地域の合意形成の可能性が高い条件があるのではないかなどの論点が出された。

1. 現地研究会 - 萩之茶屋第6町会長・サポータティブハウス「おはな」代表西口宗宏さんに西成区萩之茶屋の地域活動をたずねる - 報告 佃

◆労働者の個別支援から地域と共に支えるまちづくりへ - 町会再結成、(仮称)萩之茶屋まちづくり拡大会議、『釜ヶ崎のまち再生フォーラム』の意義⇒釜ヶ崎地域には行政や民間の就労、福祉、居住支援に関する団体や施設が集積。1990年代末から労働者に対する個別支援から再生フォーラムに見られる個人・団体のネットワーク化や地域全体で支援する方向に変化してきた。団体間・地域間連携の動き。また、町会の再結成や拡大会議もその一つ。町会再結成は労働者と地域住民の分断策に対抗して、地域代表性を獲得することにより行政との関係を作っていく意味を持つ。

2. 「ボトムアップ型」で作られたまちづくり構想-西成特区構想有識者座談会報告をめぐって - ありむらさん取材報告 - 栗本

◆1990年代末、野宿者の増加、簡易宿泊所の倒産など地域の衰退の危機感から「まちづくり」への関心が高まる。2000年から『釜ヶ崎のまち再生フォーラム』を結成し、研究、議論を重ね、まちづくりの提言を公表、さらに地域団体と支援団体の活動の場として(仮称)萩之茶屋まちづくり拡大会議など活動を発展させている。

3. 西成の子育て支援のネットワークを支えるこどもの里-こどもの里取材報告 - 横溝

◆こどもの里の特徴は、いつでも誰でも利用できることで、社会的繋がりに困難を抱えた子や親に社会から分断されることのない育ちの場、子育ての場を保障している。

4. 西成特区構想有識者座談会報告と大阪市・区の対応 - 報告佃

◆西成特区構想は「②西成特区構想について」の7「プロジェクトチームの設置について」に謳われている「西成区長を中心とした全市を挙げたプロジェクトチームを設置し、プロジェクトチームを中心に取組みを進める」としているが、現時点ではそれを担保する明確な市としての位置付けは不明確である。進行管理主体である考えられる西成区も初めてのことで暗中模索という段階である。一方で、市顧問には過大な(当然の)役割が期待されている問題点がある。

5. 中間総括議論まとめ - 釜ヶ崎の地域とまちづくりが機能する条件

①行政媒介型の地域団体の力が弱い。②各支援団体は活発で課題解決力を持つ。③まちづくりへの関心とフォーラムが長期的に継続している。④地域の危機感が共有されている。⑤公式性の高い計画づくりを課題として認識している。

当研究会は自主研究会ですので、参加者には資料代1回=500円の負担の協力をお願いしています。

主催=住民の自治・統治研究会 (06-6354-7220)